

# アチェ(インドネシア)の 友達励まそう

## 津波被害で岡山・西小児童

カレンダーやアクセサリー

心込め30点手作り

今月中に  
現地へ

四年生約六十人は昨年十二月、国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市櫛津)の協力を得て、避難所の子もたちと作品を通じた交流を計画。現地取材に当たった本紙国際貢献取材班の



話を聞いた上で作品の案を出し合い、クラスごとに約一カ月かけて取り組んできた。

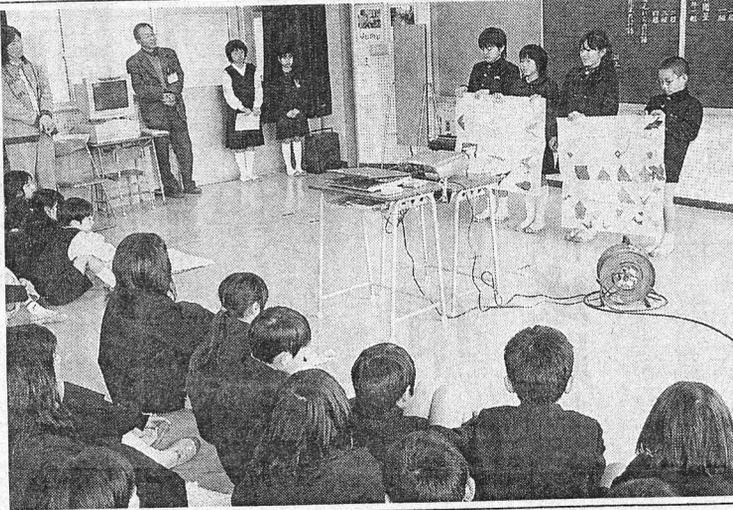
作品は、紙飛行機の作り方を順番に張り付けたもの、後樂園や吉備津神社などの写真で岡山を紹介

介したカレンダー、「希れた習字、ビーズで作った望や「夢」などと書かれたアクセサリーなど現地の

で使えるよう工夫したもののばかり。インドネシアの友達を勇気づけようと、「アパカバル(元気?)」などと、インドネシア語が添えられたものもあった。

十八日の作品発表会では、クラスごとに工夫した点などを紹介。児童らは「心を込めて作ったので、きっと喜んでもらってる」「僕たちは食事の心配もなく、学校にも行けて幸せ。アチェの友達にも希望を持って生きてほしい」などと話していた。

作品は、アチェ州の都バンダアチェにあるMDAの事務所を通じて、避難所の子どもに届けられる。三月には返事が来る予定。



アチェの友達を元気づけようと作った作品を説明する西小4年生

一昨年のスマトラ沖地震に伴う津波の被災児を励まそうと、岡山市中仙道西小学校四年生が製作していた作品が十八日、完成した。写真入りのカレンダーやビーズのアクセサリーなど約三十点。今月中に最大被災地インドネシア・アチェ州の子どもたちに届けられる。(斎藤章一朗)